

五十音図

年 組 氏名

五十音図

同じ母音の仮名を、横に十行、同じ子音の仮名を縦に五段並べたもの。縦の列を行（ア行・カ行など）、横の列を段（ア段・カ段など）と呼ぶ。文字数は「いろは」と同じ四十七字である。本来は、片仮名で表すのが一般的だったが、現在では平仮名で表すことが多い。末尾の「ン」は、もとはなかつたが、後世になつて付け加えられるようになった。

＜母音とは＞

のどを通過して出てきた声で、舌や唇などでまきつなどを受けて発音されるもの。基本的には、a・i・u・e・oの五音。

＜子音とは＞

のどを通過して出てきた声で、口の中で閉じられたりせめられたりして発音されるもの。k・s・n・g・zなどがある。

＜片仮名＞

	ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段		ワ行	ラ行	ヤ行	マ行	ハ行	ナ行	タ行	サ行	カ行	ア行
ン	ワ	リ	ル	レ	ロ		ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
	イ	キ	ク	ケ	コ		イ	リ	イ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
	ウ	ク	ク	ケ	コ		ウ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
	エ	ケ	ケ	ケ	コ		エ	レ	エ	メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
	オ	コ	コ	コ	コ		ヲ	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ

＜ローマ字＞

n	子音	母音																	
n	w	a	r	a	y	a	m	a	h	a	n	a	t	a	s	a	k	a	a
	i	r	i	i	m	i	h	i	n	i	t	i	s	i	k	i	i	i	i
	u	r	u	y	u	m	u	h	u	n	u	t	u	s	u	k	u	u	u
	e	r	e	e	m	e	h	e	n	e	t	e	s	e	k	e	e	e	e
	o	r	o	y	o	m	o	h	o	n	o	t	o	s	o	k	o	o	o

五十音図の歴史

いつ、だが、なんのために作ったのか、詳しいことはわからない。平安時代初期に、漢字の音や、お経に使われる古代インド語を学ぶ僧たちが、日本語の音を組織的に配列したのがはじまりだという説もある。今残っている最も古いものは「孔雀経音義」（一〇〇四〜二八八ごろ成立、醍醐寺蔵）という、お経に出てくる語句の発音や意味について述べた本の巻末にのっているものだが、ア行とナ行が欠けている。十行分そろつたものでは、金光明最勝王経音義（一〇七九年）にのっているものが最も古い。

古くは、「五音(ごいん)」、「五音図」とも呼ばれていた。「五十音」という言い方が定着したのは、江戸時代のことである。

※ 「五十音図」というけれど、五十の文字があるわけでもなく、五十の音があるわけでもない。母音と子音という観点から、仮名を五段・十行に整理した図（今なら表とすべきもの）だから、「五十音図」というのだ。現在の「五十音図」では、文字は「45十ン」、音は「44十ン」ということになる。

☆失われたワ行の音

ワ行の「キ」・「エ」・「ヲ」は、もともとア行の「イ」・「エ」・「オ」とは発音が違っていった。現在ではそれらの音は失われたとされ、「イ」・「エ」・「オ」で表される。ただし、「ヲ」は、「……を」という助詞のかたちで残っている。

☆便利な五十音順

何かを順番に並べる時、五十音を使うと便利である。出席簿、国語辞典、百科事典、電話帳、図書目録など、いろいろなところで使われている。日本語でアイウエオ順が使われるように、英語ではABCの順序が使われている。英語の辞書を確かめてみよう。

